

## 第5回 産研・工学研究科定例記者発表 に参加しました

事務部 庶務係 大石 萌可

令和6年9月11日に大阪大学中之島センターにて、最新の研究成果を発信する「第5回 産研・工学研究科 定例記者発表」が開催されました。今回は接合科学研究所も参加し、3部局合同での研究成果発表を行いました。

接合科学研究所からは、塚本雅裕教授が、「青色半導体レーザを用いたマルチビーム積層造形法による窒化アルミニウム基板への純銅皮膜形成技術の開発」をテーマに発表を行いました。本開発は、DOWA ホールディングス株式会社と株式会社島津製作所と共同開発されたもので、当日は、共同研究先の企業の方々にもお越しいただきました。

塚本教授は、青色半導体レーザを用いたマルチビーム積層造形法に関する研究を進めており、今回はマルチビーム積層造形法の適用により窒化アルミニウム基板への純銅皮膜形成技術の開発に成功したことを、実演動画を用いて紹介しました。開発に成功した技術は、従来とは全く異なる革新的技術であり、さらなる高信頼化だけではなく、材料ロスや製造工数の削減につながり、省エネルギー化やカーボンニュートラル社会の実現への貢献が期待されます。(発表の概要は[こちら](#))

また、産業科学研究所からは、鈴木孝禎教授が「エビジェネティクス制御で切り開く創薬の未来」(発表の概要は[こちら](#))、工学研究科からは、中野貴由教授が「3D プリンティングの革新&拠点化で「近未来型超カスタム社会」を実現へ - 医療デバイス、培養肉、航空宇宙材料、洋上風車など 3DP 研究の最前線 -」(発表の概要は[こちら](#))を発表しました。

記者の皆様には接合科学研究所の取組みについて知っていただく良い機会となりました。



記者発表をされた先生方

左から中野教授(工)、塚本教授(接合研)、鈴木教授(産研)



塚本雅裕教授の発表の様子